

特集:河原らしさを守る。

# 河原植物と外来植物。

## 在来植物の衰退は外来植物の影響が大きい。

河原植物の衰退を招いている主要な原因の一つとして、外来植物の影響が挙げられる。

外来植物と河原固有の在来植物との関係について調べたところ、

外来植物の選択的な除去を行わない限り、

外来植物が優占する植生となってしまうことが分かった。

しかし、除去を行えば、カワラヨモギをはじめとする

河原本来の植物が回復することが確認された。

外来植物の除去は、河原の自然環境の保全にとって、

有効な手法となると考えられる。



上の写真はカワラナデシコ  
表紙写真は、アゼスグ(全面)、カワラサイコ(右上)、ツユクサ(左下)  
(表紙写真撮影:木曾川を愛する会・宮崎博)

### 河原の自然生態系における在来植物と外来植物

#### 在来植物

カワラサイコ、カワラヨモギ、カワラナデシコ、カワラマツバ、カワラハハコなど、河原の環境に結びついて生育する日本在来の「河原植物」とよばれる植物。



カワラヨモギ



カワラマツバ



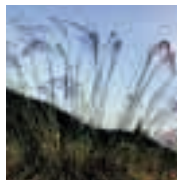
カワラサイコ

#### 外来植物

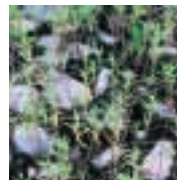
緑化事業や河川周辺の都市化にともなって持ち込まれた外国産の植物。砂礫質河原でも旺盛に生育する種類も多い。



オオキンケイギク



シナダ雷斯ズメガヤ



オオフタバムグラ



#### 除草区

月に一度、外来植物をすべて抜き取る処理を行ったコドラート。



#### 対照区

外来植物の除草を行わなかったコドラート。

#### コドラート

河原植物保全研究ゾーンに設けた各2m×2mの方形の調査区。

20個のコドラートのうち10個において、月に一度コドラート内の外来植物をすべて抜き取る処理を行い、残りの10個では除草を行わなかった。



除草区の除草作業